肥前・筑前街道－脊振坂越

【歴史の道百選　平成８年11月１日選定】

肥前・筑前街道は 12 世紀初めの平安時代につくられた肥前神埼荘（吉野ヶ里町）と岩門荘（那珂川市）、そして博多を結ぶ歴史ある古道です。年貢米や貿易品を運ぶために使用された道は、戦国時代には山城が取り囲み、江戸時代には伊能忠敬の測量隊もこの道を通ったとされ、明治の中頃に現在の国道 385 号が整備されるまでの長い間、主要な道として使われました。古くから人、物、情報の交流の舞台となり、歴史的・文化的に重要な道であるとして、文化庁より「歴史の道百選」に選定されています。

▲亀ノ尾峠へ向かう道の様子

今でも市ノ瀬から亀ノ尾峠を越えて五ケ山に続く箇所では、石畳が残っている場所もあります。脊振山信仰、山岳仏教の中心であり、肥前と筑前の国境にも近いため、街道周辺には寺院や山城が数多く存在していました。